182. アンケート調査から小学生のスポーツ・トレーニングと全国大会を考える

○塩崎知美[1]，久野譜也[1]，伊藤静夫[2]，
河野一郎[3]，宮丸凱史[3]
1 筑波大学先端学際領域研究センター，
2 日本体育協会スポーツ科学研究所
3 筑波大学体育科学系

【目的】

本研究では，ジュニア早期である小学生段階でのスポーツ・トレーニングの状況と全国大会開催の是非について検討するために，小学生のスポーツ指導者を対象としてアンケート調査を行った．また，同様な調査を全国のスポーツに関する研究者と臨床医を対象として行い，小学生段階における望ましいスポーツ・トレーニングの方向性を探ることを目的とした．

【方法】

調査対象は，東京都，千葉，埼玉，神奈川県に在住し，平成10年度に文部大臣認定「スポーツ指導者」の資格を取得した認定指導者 311名，全国に散らばる研究者49名，スポーツに関係した臨床医 41名の計401名とした．調査票は郵送により配布，回収を行った．調査期間は，1999年6月から8月の3ヶ月間であった．この結果，ジュニア指導者の回収数は177名，研究者34名，臨床医25名であり，ジュニア指導者については，全国大会に出場経験を持つ指導者（全国群42名）と全国大会に出場経験のない指導者（一般群135名）とに群分けを行った．

【結果および考察】

一部の団体においてトレーニングが長時間にわたって行われており，年間の試合数も多く，児童に対する精神的・身体的負担のかなり大きなことが予想された．また，実際に小学生が行っているスポーツ活動と研究者や臨床医が考える望ましいトレーニング状況の間には隔たりのあることが示された．

全国大会の開催については，全国群においてのみ賛成が多く，一般群，研究者においては賛成・反対がほぼ同数であり，臨床医の多くが反対の意見を持っていることが明らかになった．本調査では，小学生段階における全国大会は子どものスポーツ活動への動機付けとなる一方で，トレーニング加熱の原因となり勝利至上主義へ導かれているという意見が多かった．今後，より客観的で科学的な立場から，小学生におけるスポーツ・トレーニングと全国大会のあり方について検討していかなければならないだろう．

小学生　　全国大会